資料１－４

平成 30 年度愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名：　　藤田医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。

１．病院の機能及び医師等の配置（令和元年５月１日現在）

項　　目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕【薬剤師】小児薬物療法認定薬剤師　３名、【看護師】アレルギー学術集会に参加　３名 【管理栄養士】小児アレルギー学会に参加　１名	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数数	うち指導医数
内科	18	6	2
小児科	5	1	0
皮膚科	6	2	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	3	2	1

２．アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

		実　　績（平成 30 年度）			今　後　の　予　定（令和元年度）		
		診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容
情報提供	講演会等	小児科	一般市民	名古屋市緑区保健センター主催講演会　「スキンケア」(30 名)	小児科	一般市民	名古屋市緑区保健センター主催講演会　「スキンケア」(30 名)
		小児科	一般市民	名古屋市喘息おやこ教室講演（年２回　20 名）	小児科	一般市民	名古屋市喘息おやこ教室講演（年２回　20 名）
		内科	医師、看護師、薬剤師、学生	間質性肺炎セミナー～地域連携勉強会～(35 名)	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	令和元年５月 15 日 間質性肺炎セミナー～地域連携勉強会～
					内科	医師、看護師、薬剤師、学生	令和元年６月 12 日 IPF Academy in Toyoake(間質性肺炎の院内講演会を開催予定)
					皮膚科	一般市民	愛知県健康教育講座「皮膚疾患最新の治療」 西尾市民病院市民公開講座「身近な皮膚疾患」
	他	内科	一般住民	ホームページ上で１）重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究　２）気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供（倫理委員会承認のもの）	内科	一般住民	ホームページ上で１）重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究　２）気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供
		耳鼻咽喉科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症研究会（1 回/年、30 名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供	耳鼻咽喉科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症研究会（1 回/年、30 名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供
		耳鼻咽喉科	近隣開業医	病診連携の会（2 回/年、30 名程度） アレルゲン免疫療法についての情報提供	耳鼻咽喉科	近隣開業医	病診連携の会（2 回/年、30 名程度） アレルゲン免疫療法についての情報提供
人材育成	研修会等	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	とよあけ吸入指導セミナー（原則毎年行っており、平成 30 年度は日程調整的に実施できなかったが前回は約 40 名の参加）	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	令和元年６月 26 日 とよあけ吸入指導セミナー
		内科	医師	アレルギーに興味のある医師への勉強会(1 回/月)	内科	医師	アレルギーに興味のある医師への勉強会(1 回/月)
		内科	医師、看護師、薬剤師、	呼吸器・アレルギー　診断から治療まで～地域連携勉強会～（診察の基本から最新の喘息治療までの研修会。多くの複数の	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	令和元年６月１日 呼吸器・アレルギー　診断から治療まで～地域連携勉強会～

			学生	科の医師や関係者が参加している。参加人数は前回は 43 名）			
		眼科	新人看護師	アトピー性皮膚炎ベースの網膜剥離術後患者に対するシーネ指導(不定期、年数回)	皮膚科	医師・看護師	藤田医科大学眼科新人歓迎会講演「アトピー性皮膚炎の治療～スキンケアから抗体医薬品まで～」
					皮膚科	医師	日本アレルギー学会 第 6 回総合アレルギー講習会
					皮膚科	看護師	第 2 回西三河皮膚疾患看護勉強会
	他	小児科	教員	エピペン講習会（年 12 回　計 380 名）	小児科	教員	エピペン講習会（年 10 回　計 300 名）
助言 指導		内科	県	愛知県公害認定審査会の委員	内科	県	愛知県公害認定審査会の委員
		内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員
		小児科	一般市民	名古屋市緑区保健センターでのアレルギー相談（年 6 回）	小児科	一般市民	名古屋市緑区保健センターでのアレルギー相談（年 6 回）
		耳鼻咽喉科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	耳鼻咽喉科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言

３．アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実　　績（平成 30 年度）	今　後　の　予　定（令和元年度）
診療	・気管支喘息の重責発作の症例においても救急外来を経由し集中治療室にて入院加療を行い、重篤な場合でも迅速に対応している。 ・間質性肺炎（びまん性肺疾患）では可能な限り、病態についてカンファレンスを行い、今後の方針、治療法などに関し検討している ・食物運動誘発アナフィラキシーに関して皮膚科と相談しながら診療している ・気管支喘息は耳鼻科的合併症が多いため、耳鼻科と相談しながら診療している(内科) ・食物アレルギー児の経口負荷試験を積極的に行い、摂取可能な量を増やして患者の QOL を向上に努める。(小児科) ・木曜日の午後にアレルギー専門外来(特に前眼部)を開設した。 アトピー性皮膚炎がベースにある網膜剥離を皮膚科と連携して診療を行なった。(眼科) ・アレルギー外来にてアレルゲン免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール（毎週土曜日）(耳鼻科) ・重症アトピー性皮膚炎に対して、入院で治療を行っている。 ・アレルギーの原因検索のため、毎週火曜日午後に皮膚テスト（パッチテスト・プリックテスト）を行っている。（皮膚科）	・今後も　病態に応じて皮膚科、耳鼻科などと相談しながら診療をおこなっていく ・間質性肺炎（びまん性肺疾患）においてデータを蓄積し解析を行っていく ・今後も他科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療をおこなっていく(内科) ・食物アレルギー予防のための治療と、発症後の治療とを積極的に行い、患者 QOL を上げる努力をしていく。(小児科) ・抗アレルギー点眼薬を中心に、ステロイド点眼のみに頼らないアレルギーコントールを目指す。(眼科) ・アレルギー外来にてアレルゲン免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール(毎週土曜日)(耳鼻科) ・今後も重症アトピー性皮膚炎に対して、入院で治療を行っていく ・今後も引き続き、皮膚テストを行っていく（皮膚科）

研究	・アスピリン喘息の病態解明について AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)で共同研究を行っている ・単球由来 iPS 細胞の作出と応用に関する研究;難治性喘息の有効な治療のために　という研究課題名で科学研究費助成事業で研究を行っている。平成 30 年 12 月には米国の Cellular Reprogramming(IF:1.430)に論文掲載した。 ・サルコイドーシスにおけるリンパ節のリンパ球プロファイルに関する研究を行った。研究内容は平成 30 年 11 月に米国の PLoS One(IF:2.766）に論文掲載した。(サルコイドーシスは複数の科に渡る疾患であり、研究にあたり皮膚科、耳鼻科、循環器内科、血液内科などに相談しながら行った）（内科） ・重症魚アレルギー患者の新規治療法の開発のための特定臨床研究を開始(小児科) ・スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、喉頭アレルギーと胃食道逆流症との関連(耳鼻科) ・「乳児アトピー性皮膚炎への早期介入による食物アレルギー発症予防研究/多施設共同評価者盲検ランダム化介入並行群間比較試験」AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)で共同研究を行っている（皮膚科）	・アスピリン喘息の病態解明について AMED での共同研究を継続していく ・科学研究費助成事業での　単球由来 iPS 細胞の作出と応用に関する研究;難治性喘息の有効な治療のために　という研究課題をさらに発展させ、今後の新しい喘息治療を探索していく予定である(内科) ・重症魚アレルギー患者の新規治療法の開発のための特定臨床研究を継続(小児科) ・スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、喉頭アレルギーと胃食道逆流症との関連(耳鼻科) ・「乳児アトピー性皮膚炎への早期介入による食物アレルギー発症予防研究/多施設共同評価者盲検ランダム化介入並行群間比較試験」AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)で共同研究を継続(皮膚科)

４．アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

・当院ではすべての科で軽症から集中治療質管理が必要な症例を 24 時間体制で受け入れており、これを継続することで民の生活の質の向上を図っていきたい
・当院では基礎医学系との共同研究も充実しており引き続き継続し、単球由来 iPS 細胞を用いた新しいアレルギー・免疫治療を探索していく
・当院では気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの典型的なアレルギー疾患から、難治性疾患である間質性肺炎も得意としており診療科を横断して定期的なカンファレンスを行っており、最新の知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていきたい